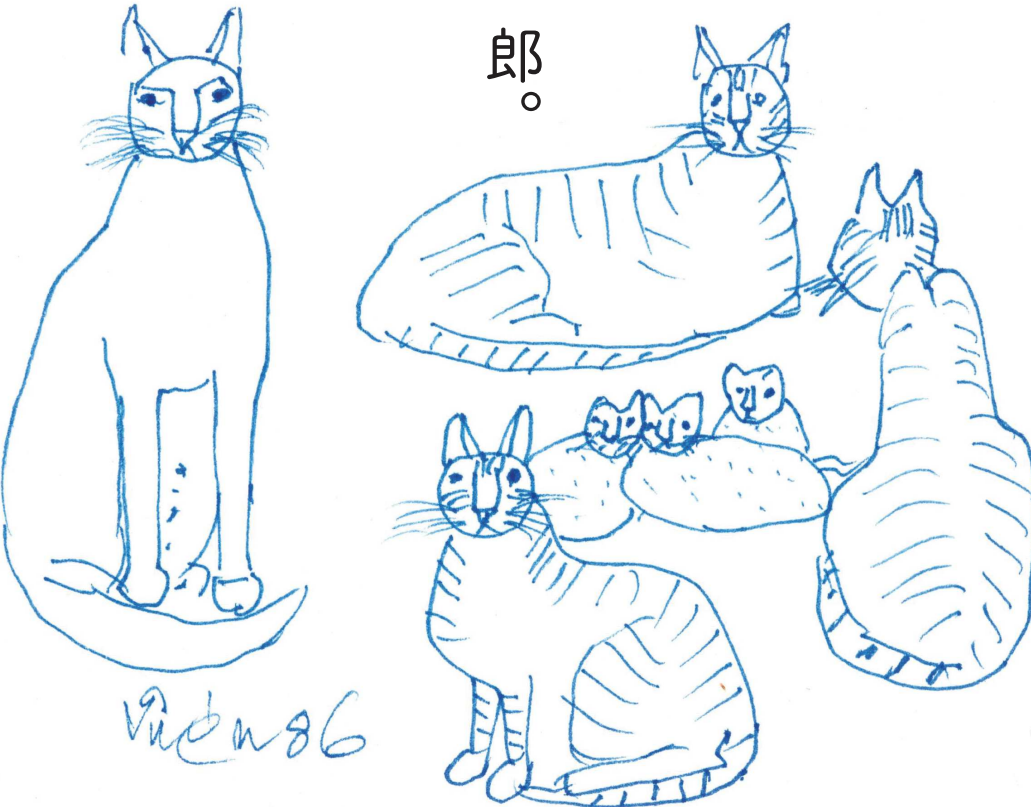


新・さぬき野

猫と猪熊弦一郎。



かがやくけん、かがわけん。
香川県

2020 No.69
夏



「盆栽に導かれ、フランスから香川へ」
ザズ プランテ エカフェ ザビエブルセ

店名の「ザズ」はザビエさんの「ザ」と和代さんの「ズ」を取ってつけた。息子の希宗くんも3人家族の愛犬ボくんも。

店の看板メニューはパンケーキ。写真のメイプルバターパンケーキや、昼限定で三木町特産のイチゴたっぷりものも。ランチも好評。



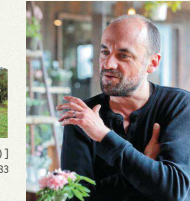
おしゃれなインテリアのカフェ。カフェ好きの女性だけでなく、家族連れ、近所の農家の人も気軽に立ち寄る憩いの場。

いつもそばにある。へ導いた小さな緑は、トワールヌから三木町

開業資金つくりのためアルバイトを掛け持ちして懸命に働き、2012年、和代さんの実家がある三木町にオープンしたのが「ザズプランテエカフェ」。店は繁盛し、ザビエさんは経営者として多忙になった。カフェでの販売には初心者向けの若い盆栽を扱い、年季の入った本格派のものは手元に残している。休業時代から少しずつ樹形を作ったお気に入りの向き合い触れたいと、忙しくて心が静かになりません。ザビエさんをトワールヌから三木町へ導いた小さな緑は、



【ザズ プランテ エ カフェ (zazu plantes et café)】
香川県木田郡三木町大字氷上1970-5 TEL087-816-8833



ザビエブルセさん
1979年生まれ。樹形を整えるために野営したり針金をかけたり、盆栽と向き合う細かな作業を愛する。日本語は謙辞弁しか話せず、「東京の仕事相手が話す標準語が分らなくて苦労します」。

香川に住んで

はじめたこと

観賞用植物の楽しみ方を提案するスペース。販売もしている。植物の知識とセンスを買われ、ガーデンの設計を依頼されることも増えた。



フランス南部の都市トゥールーズで育ったザビエさん。14歳の時に祖母がくれたガジュマルの盆栽に一目ぼれした。街に1軒だけの盆栽店に通い始め、高校時代にはすっかり愛好家になっていった。大学の生物学科に進んだが、植物に触れたい気持ちが高まり、中退して農業専門学校に再入学。しかし「やはり、学びたいのは盆栽」と、日本行きを決意。20歳で最初、24歳で2度目の来日を果たす。アルバイトを



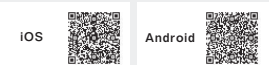
ガジュマル

しながら、東京の作家の下で、その後高松市鬼無町の盆栽園で数年にわたり修業を重ねた。「小さな木の中に、大樹と同じ生命力とアートの共存する」と、松とシンバクが特に好きになった。高松ではもう一つの出会いがあった。後に妻となる和代さんだ。結婚を視野に入れ、生業としての盆栽を考えたと、盆栽園を開くのも盆栽職人でもなく、「盆栽や観葉植物を販売するカフェを開こう」と決めた。これなら自分のセンスを生かせるし、妻と共に働ける。

香川情報誌 新・さぬき野 2020 夏 No.69

香川県に関する問い合わせ
香川県広報広報課 〒760-8570 香川県高松市番町4-1-10 TEL087-832-3019
香川県のホームページ <https://www.pref.kagawa.lg.jp/>
新・さぬき野のページ <https://www.pref.kagawa.lg.jp/kocho/sanukino/>
香川県東京事務所 〒102-0093 東京都千代田区平河町2-6-3都道府県会館9階 TEL03-5212-9100
香川県大阪事務所 〒542-0083 大阪市中央区東心斎橋1-18-24クロスシティ心斎橋4階 TEL06-6281-1661

多言語電子書籍でもご覧いただけるようになりました。無料アプリ「カタログポケット」をインストールして「新・さぬき野」で検索してください。



かがやくけん、かがわけん。
香川県

猫を愛した画家

具象画から抽象画へと作風を変化させながら、20世紀を丸ごと生きた偉大な画家・猪熊弦一郎。その心の中には、ひとつの生き物がすんでいた。

描き続けたのは常に新しいもの。

猪熊弦一郎は、東京、パリ、ニューヨーク、ハワイを拠点としながら、具象から抽象へどんな作風を変え、常に新しいものを生み出そうとしていた画家である。1902年(明治35年)に高松で生まれ、1993年(平成5年)に90歳で亡くなるまで生涯現役。4つの時代を生きて戦争も体験した、まさに20世紀の日本を代表する作家の一人である。猪熊弦一郎の手柄を表す上で欠かせないのが愛猫家の一面。多いときは一度に1ダースもの猫を飼っていたほどの猫好きであった。創作活動のモチーフにもなり、多くの作品が残されている。



猪熊弦一郎《題名不明》1986年
所蔵：丸亀市猪熊弦一郎現代美術館
©The MIMOCA Foundation
撮影：丸尾和糖



誰とも違うやり方で猫の形と色を描く。

猫を描いた時期は、大きく二つに分かれる。最初は戦後間もない1950年代。この頃は具象画を描いていた時期で、多数の作品に猫の姿がある。古来より猫は絵画の中に登場しているが、どうやらその描かれ方に納得していなかったようだ。

「今まで色々と沢山描かれている猫は、どうも自分には気に入らない。それで猫の形と色を今までの人のやらないやり方で描いてみたいと思った。」

(『美術の秋』赤い服と猫、報知新聞「1999年10月4日」)

「絵は色と形のバランスで出来ている」というのが猪熊弦一郎の考え。猫という生き物を、色と形でどう表現するか。多くの思索の上で描いていたのだろう。その後、1955年にニューヨークへ渡ってからは抽象画を描くようになる。もしかしたら猫の表現は、具象と抽象をつなぐ存在であったのかもしれない。ニューヨーク時代の作品に猫の姿は

見られないが、晩年、日本に戻ってから再び猫を描くようになる。スケッチブックからメモ帳の端にまで、あちらこちらに多彩な猫が描かれている。極端に省略、デフォルメされていても「これは、まさに猫である」と思わせる表現力。作家の鋭い観察眼と深い愛情を感じる。

語り継がれるすべてを許す暮らし。

猪熊弦一郎は、猫好きエピソードに事欠かない。戦時中には、疎開先にまで猫を連れて行ったというから驚きだ。食べるものにも困っていた時世に、その猫が近所のニワトリを襲って大事件となっている。それでも周囲に受け入れられるところに彼の手柄がうかがえる。また、1ダースの猫を飼っていた頃は猫のおしっこにも寛容であった。当時の弟子には、襦に残ったおしっこのシミを「猫の作品だ」と言っており、実際にシミをなぞって顔や猫を描いている。気持ちを張り詰めた創作中でさえ、キャンパスの裏から見える運筆の動きに猫がパンチを繰り出すのを、そのままにしておいたという。どこまでも猫を愛した作家が残した作品は、今、世界中の猫好きから愛されている。



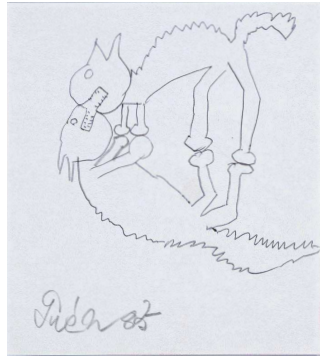
撮影：高橋章



猪熊弦一郎《題名不明》1954年
形としての面白さを追求しながら猫らしさも表現。



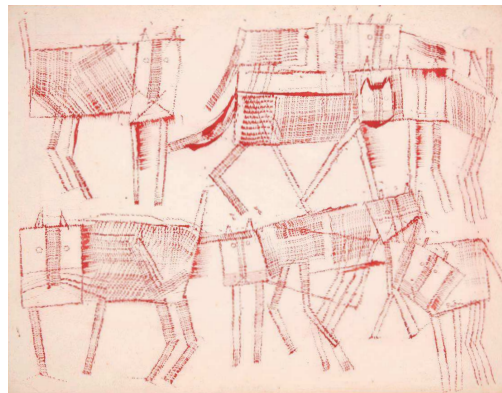
猪熊弦一郎《鳥の明》1990年
鳥を描いたシリーズの一つ。羽の生えた猫の姿がある。



猪熊弦一郎《題名不明》1985年
ケンカしているのか、鏡のように映っているのか。



猪熊弦一郎《題名不明》1986年
区切られた複数の枠の中で猫が描かれている。



猪熊弦一郎《題名不明》1954年
四角に描かれた猫は、かなり図案化されている。

タイトルが付けられてサインの入った作品もあれば、
手元に置いていたであろうスケッチブックに
さらっと描かれたデッサンもある。
多彩に表現された数多くの猫作品の一部を紹介する。

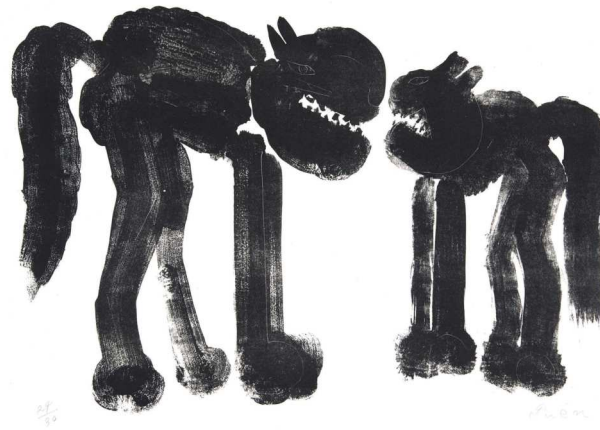
猪熊弦一郎が 猫を描いた作品。



猪熊弦一郎《三匹の猫》1945年頃
身の回りのものが描かれており、
当時の暮らしがうかがえる。



猪熊弦一郎《婦人と猫》1949年
女性は文子夫人。生涯、最も多く描いたモチーフである。



猪熊弦一郎《題名不明》1950年代
猪熊弦一郎は猫から感じる野性も好んでいた。



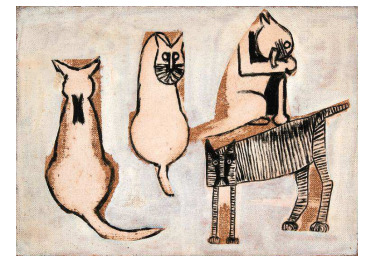
猪熊弦一郎《題名不明》1944年
制作当時は戦時中。テーブルの料理に工夫が感じられる。



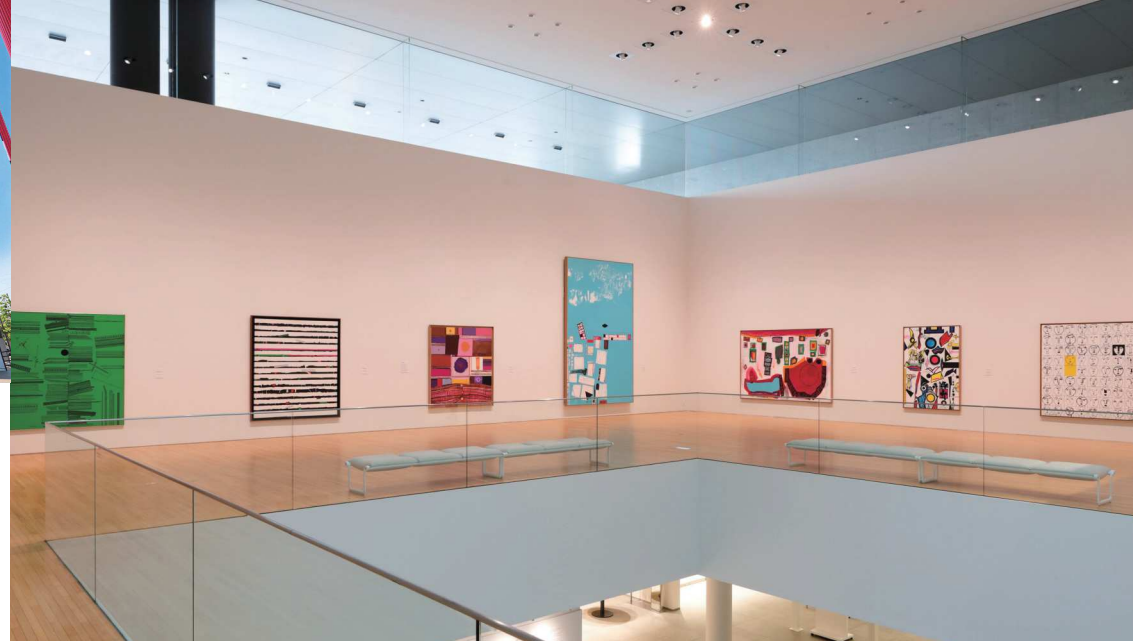
猪熊弦一郎《猫と食卓》1952年
この頃、愛猫家でも食卓に猫を上げることはなかったであろう。



猪熊弦一郎《猫によせる歌》1952年
人の顔と猫の顔が同じように描かれ、積み重ねられている。



猪熊弦一郎《題名不明》1954年頃
左端の猫の肩甲骨の表現に共感する猫好きが多い。



MIMOCAリニューアルオープン

現在、MIMOCAは改修工事を終えて、リニューアルオープンを予定している。新型コロナウイルス感染症の拡大防止のためオープンは未定であるが、開館日が決定すればホームページなどで告知される。(2020年5月18日時点)

丸亀市猪熊弦一郎現代美術館(MIMOCA)は、猪熊弦一郎の全面協力の下、1991年に開館した。彼が示したコンセプトは「美術館は心の病院」。西洋では毎週日曜に教会に行き疲れた心を癒やしている。それと同じ役割を担うのが美術館であるという考えであった。どんな人でも気軽に立ち寄れる場所にするため、地方の美術館としては異例の駅前立地。子どもの時から良い芸術に触れられるようにと高校生以下を無料としている。90歳で亡くなる3日前まで、ここで指導をしていた猪熊弦一郎。その思いを受け継ぐ美術館である。



丸亀市猪熊弦一郎現代美術館 (MIMOCA)

香川県丸亀市浜町80-1
TEL 0877-24-7755
www.mimoca.org

猫好きの作品への共感がおもしろい。

MIMOCAには、猪熊弦一郎の猫作品を見ようと多くの猫好きの方が訪れてくれます。一度も猫を飼ったことがない私には、その方たちが着目するポイントや感想がとても興味深いです。例えばたくさん猫が並んで正面を向いている作品(題名不明)は、私には顔の連続がおもしろいのですが、「何か物音がした時、猫ってこんな感じで一斉にこっちを向くよね」との声が聞こえてきます。テーブルの上に猫が乗っている『猫と食卓』だと、私はテーブルやイスの直線と猫の曲線との対比に目がいきますが、「うちの猫もこれをやって困る」とうなずいている方がいます。純粋にアートとして鑑賞するのは少し違って、普段目にして猫の生態を思い出して作品に共感しているわけです。一つの作品を多角的に鑑賞するのは素晴らしいこと。猪熊弦一郎の猫作品は、猫好きの方とアート好きの方が一緒に鑑賞すると2倍楽しめるのではないのでしょうか。



丸亀市猪熊弦一郎現代美術館 (MIMOCA)
学芸員
古野華奈子さん

猫のミュージアムグッズ

「人々の身近なところに美しく、楽しいものを」という猪熊弦一郎の思いが込められたMIMOCAのミュージアムグッズ。猫をモチーフにしたものも多数あり、あれこれと手を伸ばしたくなる。ウェブショップにて全国から購入できる。

webショップ <https://www.mimoca.org/ja/shop/>



ポストカード
(猫 椅子の上)



ポストカード
(アイロン掛けと猫)



ポストカード
(動物たち10)



シール大 猫11



メモ帳 猫



缶バッジ
大(金魚鉢の中の猫と魚)
大(寝たわる猫)
中(大きい猫と小さい猫)



手ぬぐいハンカチ(猫13)



手ぬぐい(猫列)



いのくまTシャツ
(ギザギザ猫)



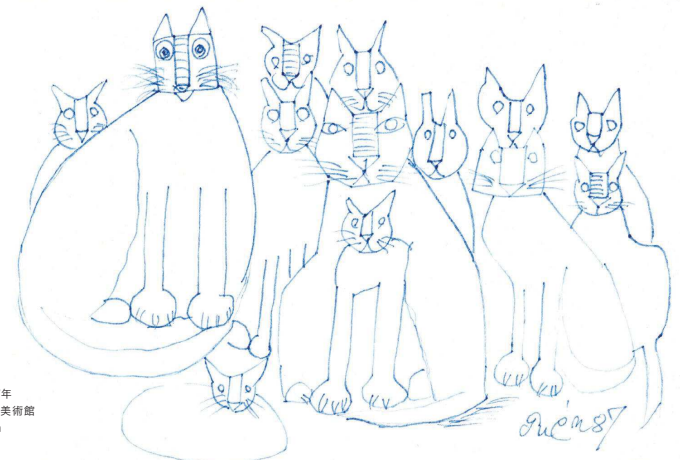
いのくまさんのノートバッグ
(すわり猫)



猪熊猪口(すわり猫・頭上猫・魚たち)



猪熊弦一郎
猫画集
ねこたち



猪熊弦一郎《題名不明》1987年
所蔵：丸亀市猪熊弦一郎現代美術館
©The MIMOCA Foundation



中原淳一が生まれたのは、広大な松原で知られる香川県大川郡白鳥本町（現在の東かがわ市）。1913（大正2）年2月16日、中原郁朗、シウ夫妻の四男として産声を上げた。

門前町から産業の町へ

子どもの頃から手先が器用で、母からは人形づくりを教わり、姉のドレスを縫い上げたという中原淳一。18歳で人形作家として個展を開催したのが、デザイナーの世界に足を踏み入れるきっかけとなり、雑誌「少女の友」で竹久夢二風の夢見るような乙女の挿絵を描くことになる。戦後は自身が手掛ける雑誌「それいゆ」や「ひまわり」などを次々と発表し、色を失った戦後の日本において、女性たちに美しく生きる道を教える論してくれた。その作品やファッションは今も多くの人々をとりこにしている。

美しく生きる道

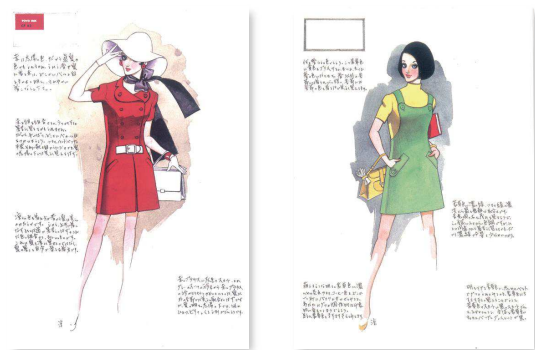
21世紀に入って世界に最も広まった日本語と紹介される「Kawaii」。「Kawaii」の元祖とも呼ばれるのが、昭和を代表する人気画家であり、人形作家、ファッションデザイナーの先駆者でもある中原淳一。淳一が生まれた東かがわ市白鳥の地で、「Kawaii」のルーツを探る。

中原淳一の「Kawaii」を白鳥で探る



「ワンピース集」表紙 1954年

JUNICHI NAKAHARA



最後に手掛けた雑誌「女の部屋」に連載されたファッションページより。中原淳一のデザイン画は、コシノヒロコ氏をはじめ、4年間そばで指導を受けた芦田淳氏など、日本のそうたるデザイナーに影響を与えた。

白鳥の町は、江戸時代初期から白鳥神社の門前町として栄えてきた。当時は、西の金毘羅、東の白鳥と並び称され、大変な賑わいを見せていた。豊かな商家も多く、華やかな着物姿や時には最先端の洋服姿も見ることができただろう。しかし、明治中頃になって繁栄に陰りが見え始める。その救済策として、手袋産業が興る。大正期には、世界を相手に手袋の販路を広げていた。

淳一の白い手袋

四国の海辺ではあるが、世界のファッションが海を渡ってこの地にも届いた。当時の手袋は季節を問わず、和洋を問わず、女性の手にあった。母のシウは、細やかな縫製の技が伝わる手袋の町で裁縫を人に教えたというが、腕前は相当なものであっただろう。そのセンスや技を受け継いで、ファッション小物にもこだわる淳一。

人気のブラウス集の扉を飾ったスタイル画。手袋と花束が愛らしさを添える。

「もしこの世の中に、風にゆれる『花』がなかったら、人の心はもっととっと荒んでいたかもしれない」と記した淳一。戦争を乗り越えて花束や手袋を手にした少女の姿は、いつの世にも「Kawaii」が人々を救うと語りかけている。



中原淳一と東かがわ市の絆をつなぐように、同市に本社を置くヨークス株式会社が手袋をはじめとした中原淳一グッズを製造。ひんやりと涼感が心地よい春夏の手袋など、中原淳一ショップ「それいゆ」で求めることができる。

中原淳一ショップ「それいゆ」
東京都港区南麻布5-1-27（東京メトロ日比谷線広尾駅4番出口より徒歩1分）TEL 03-5791-2373
<http://www.junichi-nakahara.com>（オンラインショップ・通信販売も有）



香川県知事

浜田 恵造

知事 千葉会長は、四国の新幹線に、どのような将来像を思い描かれていますでしょうか。

千葉 四国の4つの地方銀行で構成する四国アライアンスと共同で取り組



四国新幹線整備促進期成会会長

千葉 昭

1946年香川県高松市生まれ。1969年京都大学経済学部卒業後、四国電力に入社。取締役副社長、取締役社長を経て2015年に取締役会長に就任、現在同社相談役。四国経済連合会では、2015年に会長に就任し、産業振興や四国道路の世界遺産化に取り組みなど四国地域の発展に貢献。2019年から同会相談役。2017年から四国新幹線整備促進期成会初代会長に就任。現在も会長として、4県知事と共に四国への新幹線誘致活動を牽引している。

四国新幹線整備促進期成会ホームページ
<http://www.shikoku-shinkansen.jp/>



さあ、次は四国の番だ。

目標は2037年！ 走れ四国の新幹線

乗り入れを、国の計画に盛り込んでもらうことが極めて重要です。

知事 新幹線の整備には、莫大な費用を伴うため、採算性に疑問を持つ意見がありますが、「四国の新幹線」は投資効率性の面からも妥当であることが確認されていますね。

千葉 知事のおっしゃるとおりで、岡山から既に新幹線仕様で建設されている瀬戸大橋を通過して宇多津に入り、そこから四国の4県都へ至るルートであれば、費用対効果、いわゆるB/C

知事 新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、県民の皆さまにも行動の自粛などをお願いしている状況ですが、香川県・四国の将来にも目を転じて、早期の実現を目指す「四国の新幹線」について、四国新幹線整備促進期成会の会長を務めておられる千葉昭さんにお話しを伺います。

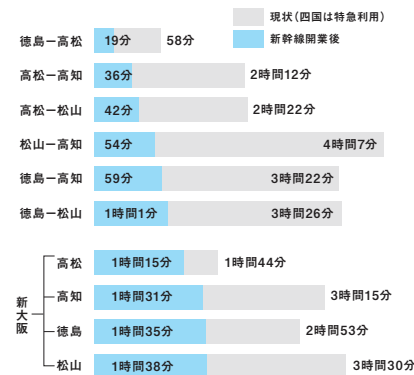
日本で初めて国立公園に指定された瀬戸内海に、1988年、世界最大級の鉄道道路併用橋「瀬戸大橋」が開通しました。以来32年に渡り経済、観光、そして人々の暮らしにさまざまな恩恵をもたらした瀬戸大橋ですが、実は新幹線の往來を想定した構造となっていないことはあまり知られていません。

千葉 新幹線の整備は、建設中のものを含めると全国47都道府県のうち約3分の2に行き渡りました。もはやあつて当たり前な基礎的な交通インフラですが、四国は全国で唯一、新幹線の具体的な整備計画がない地域として取り残されています。このままでは、四国は大きなハンディを負うと強い危機感を持っております。そこで、浜田知事をはじめ四国の行政、経済界の皆さんと四国の新幹線の活動を始めたのが、5年前の夏。この間、2017年には四国が一体となった推進組織「四国新幹線整備促進期成会」が設立され、東京での決起大会や国への要望活動など、精力的に取り組んでまいりました。

は1を上回り、投資に見合った効果があることが検証されています。また、沿線地域の人口集積の面でも、四国は、既に新幹線整備が進められている北陸や北海道と比べても全く遜色がありません。「四国のような田舎に新幹線が来るはずがない」と思っている方は結構多いのですが、四国の新幹線は整備されて当然なのです。

知事 新幹線が地域に多大な効果をもたらした最近の事例として、2015年に開業した北陸新幹線の開業が挙げられると思います。

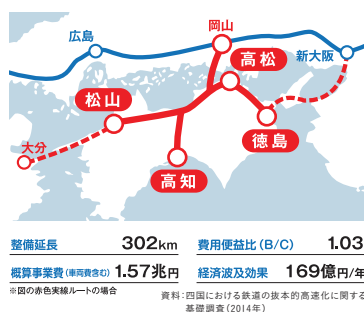
四国4県都間および新大阪～四国4県都間の所要時間比較



注)「四国における鉄道の技術的高速化に関する基礎調査」(2014年)において、費用便益比(B/C)が1を上回ることが示された「岡山を起点に瀬戸大橋を介して4県都をT字型に結ぶルート」を前提としている。

資料提供: 四国新幹線整備促進期成会

四国の新幹線整備のイメージ



- スーパー・メガリジョン: リニア中央新幹線の開通により、東京、名古屋、大阪の三大都市圏が1時間圏内となり、一体化することで形成される超巨大都市圏。
- 地方創生回廊中央駅: 日本全国、地方と地方をつなぎ、全国一つの経済圏に統合する「地方創生回廊」の実現のため、新大阪駅について、結節機能強化や容量制約の解消を図り、新幹線ネットワークのハブとして位置付けようとする「地方創生回廊中央駅構想」が国において提唱されている。

知事 私も各県知事と共に期成会のメンバーとして推し進めてまいりましたが「四国の新幹線」は四国4県の県都がほぼ1時間以内で結ばれるという四国が一つになって活性化するにはぜひとも欲しい交通インフラです。また、新幹線で新大阪まで直結することで、リニア中央新幹線の延伸と合わせた波及効果も期待できます。

千葉 期成会は「リニア中央新幹線が新大阪まで延伸し、スーパー・メガリジョン①が誕生する2037年を一つのターゲット」として四国の新幹線の開業を目指す」との中長期目標を掲げています。この目標のためには、整備計画格上げに向けた法定調査を早急に実施してもらうことが必要です。また、リニア中央新幹線の延伸に合わせて、新大阪駅は新たな地下ホームが整備され、「地方創生回廊中央駅②」として、北陸、山陽、九州新幹線も乗り入れることとなるでしょう。この新大阪駅への四国の新幹線の

んだ「新幹線を活かした四国の地域づくりビジョン調査」では、3つの地域づくりの基本戦略を提示していますが、この中で最も重要な戦略は、新幹線によって「人口200万人規模の四国ネットワーク中枢都市圏を形成する」という考え方です。この都市圏の具体的な将来イメージを紹介すると、プロ野球チームの設立、世界的な楽団による公演開催、魅力ある四国の大学の設置などが考えられます。

知事 「四国の新幹線」は、四国が目指すべき公共交通ネットワークの将来像の骨格であり、地震に強いインフラであることから、大規模災害への対応という点でも重要です。これまでの新幹線がそうであるように、子や孫の時代にもって感謝される公共事業であると確信しております。ぜひとも「四国の新幹線」実現に向けて、今後ともよろしく願っています。

※今回の対談は、画面インタビューにより実施しております。

菅原道真がいた、古代の香川県庁 「国史跡に指定 讃岐国府跡」

「古代の香川県庁」とも呼ばれる讃岐国府跡(坂出市府中町)が、歴史・学術上価値が高い遺跡として、3月10日に国史跡に指定されました。

平安時代には、学問の神様として有名な菅原道真が国司として赴任(886~890年)しており、讃岐国府での日々や地元の人々との交流、国府周辺の風景などについての道真の詩が、漢詩集「菅家文章」の中に残されています。また、保元の乱(1156年)の首謀者として讃岐に流された崇徳上皇が過ごしたとされる木ノ丸籠も、国府のすぐそばにあったことが知られています。

その他にも、寺院(国分寺・国分尼寺、開法寺など)、道路や港といった交通施設(南海道、国府津)など重要な施設が周辺に点在しており、讃岐国府跡は、香川県の歴史を明らかにする上でも、とても重要な場所と考えられています。

長期にわたって讃岐国の中心として繁栄した讃岐国府跡をはじめ、弘法大師・空海ご誕生の地と伝わる総本山善通寺や、保元の乱の後に起こった源平合戦の舞台でもある屋島など、香川県には歴史を楽しむことのできるスポットがたくさんあります。新型コロナウイルスが収束した際は、ぜひ香川で日本史を楽しんでみてはいかがでしょうか。

【問い合わせ】香川県埋蔵文化財センター TEL0877-48-2191
<https://www.pref.kagawa.lg.jp/maibun/sanukikokuhu.html>



讃岐国府跡とその周辺(イラスト部分は重要施設の一つが見つかった開法寺東方地区)



讃岐国府跡で出土した土器(複製)

讃岐国府跡で出土した三彩陶器(複製) 香川県埋蔵文化財センター作成

日本一の生産量 「高松盆栽」



日本を代表する文化として、世界共通語にもなっている「BONSAI」。高松市の鬼無・国分寺地区は松盆栽の日本最大産地で、ここで産まれる松盆栽は「高松盆栽」と呼ばれ、世界中の愛好家から愛されています。高松盆栽の歴史は江戸時代に始まり、明治時代には、せん定と接木、針金による整枝の技術が発達し、飛躍的な発展を遂げました。ずらりと並べられた盆栽の鉢。畑一面に植えられた松の苗。鬼無・国分寺地区には、思わず見入ってしまうような風景が広がっています。

温暖な気候風土の下、小さな苗の時から生産者に育てられた高松盆栽には、美しさとともに不思議な親近感があります。

今年4月1日には、国内外に高松盆栽の魅力発信を行う交流拠点施設「高松盆栽の郷」(高松市国分寺町国分)が誕生。展示や直売のほか、ワークショップやイベントを通じて高松盆栽の歴史や文化、魅力を存分に楽しめる施設で、新たな盆栽ファンの開拓も期待されています。

【問い合わせ】香川県農業生産流通課 TEL087-832-3419

新型コロナウイルスに立ち向かう 「手袋の技術で、安心を届ける ～いいマスクを、少しでも多く～」

新型コロナウイルスの感染拡大が報じられるとともに持ち上がったマスク不足の問題。人々の生活の不安を少しでも和らげようと、香川県の手袋産業が、世界に誇る縫製技術を用いて次々と独自のマスクを生み出しています。



東かがわ市は、手袋の生産量が全国の90%以上を占める、1888年から続く日本の手袋産業発祥の地。長い歴史の中で培われた高い製造技術は、今や日本のファッション業界やプロスポーツに欠かすことのできないものといわれ、かばんや革製品などにも応用されています。さまざまな挑戦を経て業界の根拠を取り戻ってきた香川の手袋。草創期から変わらない「チャレンジ精神」は、現在、日本中の人々を応援する「不屈の精神」となって新たな困難に立ち向かっています。

日本手袋工業組合によると、手袋業界のマスク製造・販売への動きが見られたのは、今年の2月ごろ

「複数の企業から、マスク不足の解消へ貢献したいという声」が挙がり、3月には、縫い目のないマスクや抗菌素材のマスクなど、各社からいろいろなマスクが発売されはじまりました。組合内のショップでも多種多様なマスクを販売していますが、どれも質・デザインともに高い評価をいただいています。そう語るのは、事務局の大原さん。

一つ一つが手作業で作られるため、製造枚数には限りがあるが、どのマスクも販売すればすぐに売り切れるほどの好評ぶり。一人でも多くの方に、少しでも安心を。新型コロナウイルスと闘う香川のものづくりに、今後も注目です。

【問い合わせ】日本手袋工業組合
香川県東かがわ市湊1810-1 TEL0879-25-3208
<http://www.tebukurokumiai.jp/>

立体縫製で快適に。洗って使える抗ウイルス生地 「SWANYオリジナルマスク」

手袋・かばんなどの製造を手掛ける株式会社スワニーのオリジナルマスク。立体縫製が生み出す柔らかい着心地と顔を包み込むフィット感。裏地には、同社で製造する防寒用手袋などに利用する抗菌・抗ウイルス機能繊維加工技術を用いた素材を使用。使いやすさと安心感を兼ね備えた優れたものです。

その他、女性の悩みを解決するマスクも登場。唇とマスクが触れないよう形を工夫し、着け心地を最優先。抗ウイルス生地の代わりに抗菌生地を用いることで、安心感を保ちつつ、リーズナブルな価格に。素材にレースを用いるなど「おしゃれ」にもこだわっています。

【問い合わせ】株式会社スワニー 香川県東かがわ市松原981 TEL0879-25-4101 <https://www.swany.co.jp/>



公式オンラインショップや日本手袋工業組合で販売中

香川の県産品ポータルサイト 「LOVEさぬきさん」

香川県の県産品を紹介するポータルサイト「LOVEさぬきさん」では、讃岐うどんやオリーブオイルをはじめ、フルーツや野菜、魚や畜産物、伝統的工芸品などさまざまな香川の県産品を動画や写真などで分かりやすく紹介しています。

見て食べたくなったら、香川の食材がおいしく味わえるレストラン情報をチェック。香川県内はもちろん、首都圏、関西圏にあるレストランをエリアごとに紹介しているので、県外にお住まいの方は、お近くのお店を探してみてもいいでしょうか。

さらに、ホームページのリンクにある「栗林庵オンラインショップ」では、気になる県産品のお買い物もお楽しみいただけます。

香川の良いもの、おいしいものがいっぱい「LOVEさぬきさん」をぜひ、ご覧ください。



【問い合わせ】香川県産品振興課 TEL087-832-3385
詳しくは、「らぶさぬきさん」で検索してください。

らぶさぬきさん 検索
<https://www.kensanpin.org/>
スマートフォンにも対応しています。

